

今日のトピック **引き続き良好な内容だった米国の雇用統計（2018年4月）** **約17年振りの低さとなった失業率**

ポイント1 **雇用者数は16.4万人増** **過去2カ月の実績値が上方修正**

- 2018年4月の非農業部門雇用者数は前月比16.4万人の増加となり、市場予想（ブルームバーグ集計）の同19.3万人増を下回りました。
- しかし、過去2カ月の雇用者数が合計で3万人ほど上方修正されたことを踏まえると、実質的には事前予想通りだったと評価できます。
- 3か月移動平均で測った雇用の増加ペースは月平均20.8万人と、20万人台を維持しました。

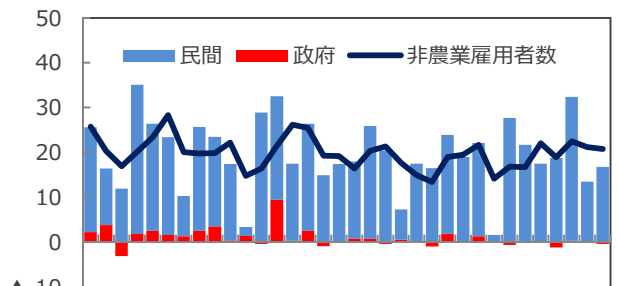
ポイント2 **失業率は3.9%に低下** **賃金の伸びは引き続き緩慢**

- 失業率は前月の4.1%から3.9%に低下しました。2000年12月以来の4%割れです。前月に比べ労働供給（労働力人口）が減少したことが主因です。
- 賃金上昇率は前月比+0.1%となり、市場予想の同+0.2%を下回りました。前年同月比では+2.6%となります。前年同月比で測った賃金上昇率は、15年後半以降のレンジの上限である+2.8%を、抜くことができない状態が続いています。

今後の展開 **物価・賃金が安定しているため、利上げの速度は緩慢と見られる**

- 景気・雇用が順調に拡大を続けていることから、今後も利上げは継続される見込みです。物価上昇率は米連邦準備制度理事会（FRB）の目標値である+2%に接近してきましたが、FRBはある程度の物価の上振れは容認するもようです。賃金上昇率の加速が見られないこともあり、利上げの速度は、しばらく緩やかなものにとどまると考えられます。
- 雇用統計が公表された5月4日の米国市場では、前日に比べ株価は上昇、債券利回りは同ほぼ横ばいとなりました。堅調な雇用の増加が確認された一方、インフレの原因となる賃金上昇率が安定していることが示されたため、FRBは利上げのペースを加速させることはないとの観測が強まったことによるものです。

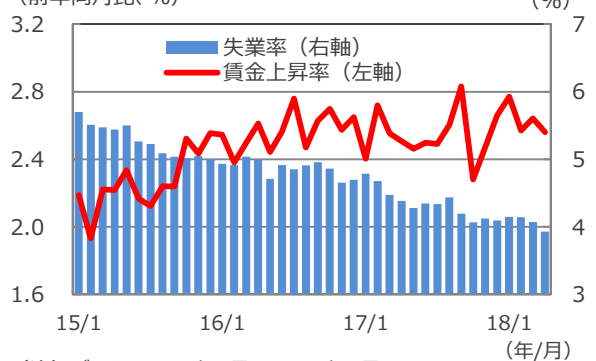
▲ (万人) 【非農業雇用者数の推移（前月比増減）】



▲ 10 15/7 16/1 16/7 17/1 17/7 18/1 (年/月)

(注) データは2015年7月～2018年4月。
非農業雇用者数は3か月移動平均ベース。
(出所) 米国労働省のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

▲ (前年同月比、%) 【賃金上昇率と失業率】



(注) データは2015年1月～2018年4月。
(出所) 米国労働省のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

ここもチェック! **2018年5月02日 米国の『実質GDP』は一時的に減速** **2018年4月26日 米労働市場に『需給のミスマッチ』はあるか？**

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。